

上海市内の現地校・インター校とのスポーツ(バスケット)交流を通して

平成 17 年度 上海日本人学校(虹橋校・浦東校)派遣
岡山市立桑田中学校 川元 彰

平成 17 年の 4 月から平成 20 年の 3 月まで上海日本人学校(虹橋校・浦東校)に勤務し、中学部で数学を担当しました。また、在外教育施設では、珍しく“部活動”が行われており、3 年間バスケット部を担当しました。日本国内の中学校とは違い、思うように練習もできず、対外試合はありません。そんな中で部員たちが楽しみにしているのが年に一度の現地校・インター校との交流試合です。

①平成 17 年度 上虹中学

平成 17 年 10 月 26 日(水)の 5, 6 校時に部活動の時間を利用し、バスケットボール部とサッカー部の交流戦を行いました。日本で部活動を指導しているときと同じ感覚で単なる練習試合程度のつもりで出かけましたが、まず校門でびっくりさせられました。ブラスバンドの演奏で歓迎され、校門の両側に作られた花道に迎えられました。生徒たちの表情は決して“やらされて”いる感じはなく、自然な笑顔で迎えてくれたのがとても印象深かったです。一旦、校内に入ってしまうと、校門での熱烈歓迎ぶりが嘘のように落ち着いていました。『日本人かあ』という一種の特異的な視線は感じて、練習試合特有の戦闘態勢の視線は感じられませんでした。むしろ、友好的な雰囲気さえも感じられたほどです。



さらに、驚かされたのが試合のコート。体育館は無く屋外のコート。体育館のことを上虹中学の教師に尋ねてみると、『上海市内のほとんどの中学校は体育館はありません。』との答えにまたしても驚かされました。

②平成 18 年度 上海浦東中学

平成 18 年 10 月 14 日(火)の部活動の時間を利用し、バスケットボール部とサッカー部の交流戦を行いました。ここでも、昨年度の上虹中学のときと同じように熱烈な歓迎を受けました。やはり生徒たちの表情は決して“やらされて”いる感じはなく、自然な笑顔で迎えてくれました。

校内に入ってからでも熱烈歓迎ぶりは止まず、盛大な開会式へと続きました。まもなく屋外のバスケットコートへ移動し、交流戦を行いました。今回は、上海浦東中学の先生とペアで審判の笛を吹くこともできました。練習試合特有の戦闘態勢の空気を若干漂わせながらの交流戦は緊張感がある中でも友好的な雰囲気の中で進められ、生徒共々私も気持ちの良い汗をかくことができました。今回のスポーツ交流を通して、中国の競技スポーツへの指導体制の一端を垣間見ることができたように感じました。



お別れの時間になると、上海浦東中学の数人の女生徒と本校の女生徒数人が涙を浮かべながら握手をしたり、抱き合ったりしていました。短い時間の交流がこれほどまでに生徒たちの心に残るものかということを感じさせられました。

③平成 19 年度 耀中国際学校(現地インター校)



1 月 22 日(火)今年度は、耀中国際学校(浦東校)とサッカーとバスケットで交流しました。上海日本人学校浦東校の校庭と体育館で凍り付くような空気の冷たさを忘れさせてくれるような温かい交流が行われました。体育館の中でも底冷えのする中、男子のジュニア・シニアと女子の 3 チームに分かれて、交流試合を行いました。始めはぎこちなかった動きも次第にスムーズになり、白熱した試合を展開しました。今回の試合で自分たちの課題が見え、“もっといいプレーを！”と意欲をかき立てられたようです。

来年度も、自分たちの進歩を確かめるためにも交流をしたいと強く感じました。

